

# 夢窓幼稚園通信 第15号

2024年5月31日

急須でお茶を湯のみに入れていただく機会が、以前に比べるとずいぶん少なくなりました。

各家庭はそれぞれでしようが、世の中の会合ではほとんどすでにテーブルの上にペットボトルのお茶が置かれています。

今でも時々急須に茶葉を入れ静かにお湯を入れ、銘々の湯のみに分けながらお茶を出して下さることがありますが、いただくお茶そのものはもちろんですが、それまでの何とも言えない穏やかな時間が、ご馳走だなと思います。

子どもたちは、目の前で営まれる大人の生活の、ひとつひとつの様子をとても真剣な目指して見つめ受けとめています。大人が小さな子どもたちのように身体全体を目のようにして周囲の世界を見つめるとしたら、ほんの数分でへとへとになってしまうことでしょう。

それほどくいばい 子どもたちは大人の生活を見つめ模倣し、自分の行動に結びつけていきます。ですから子どもたちの生活の仕方や成長は、周囲の大人の生活ぶりを大きなきっかけとし、また最も大切な環境として促されるのですわ。

かつて園長室に毎日あそびに来る常連の子と、木のおもちゃの急須と湯のみで他にあそびに来ていた子も含めお茶会をしたことがあります。はじめは私がホストで2人はお客さま。静かにゆったり準備するのを待って、おいしそうにお茶を3人でいただきます。順にホストが変わってずいぶん長い時間お茶会を楽しみました。

なかなか言葉が出ない自由奔放に過ごすその子は数日後自分の水筒からマグカップにお茶を注ぎ、私に振る舞ってくれました。

例えばおもちゃを独占したり取り合ったりする子どもたちがいたときに、「分かち合うことの大切さ」を言葉で言い聞かせるよりもあそびや生活の中で分かち合うよろこびを体験する方がずっと子どもたちの心に届くは違いありません。

今私たちの社会では分かち合いをどのくらい大切にしているのでしょうか。

私たちの生き方そのものを吸い込むようにして育つ子どもたちに、どのような価値を届け分け与えたいと願っているのか、ゆくりと雨の季節に お茶を飲みながら 思い巡らしたい思います。

園長 弁光 泰雄